パワードサブウーファー

S-EW5

インターネットによるお客様登録のお願い

http://www.pioneer.co.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。
上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。
なお、「取扱説明書」は「保証書」、「ご相談窓口·修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意（絵表示について）

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警告 [異常時の処置]

プラグを抜け

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

禁止

- 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。
また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

プラグを抜け

- 機器本体の電源スイッチを切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

- 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。
万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ(遮断装置)に容易に手が届くように設置してください。

特長

■ 200W(PEAK)ハイパワーアンプ。

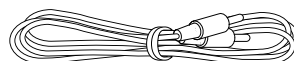
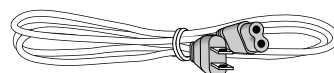
■ クリアに広がる重低音、新開発アブソーブディフューザー。

■ 入力信号に忠実な再生、フィルタースルー設計。
AVアンプの音声信号に対し、サブウーファーでLPFの重複処理をすることで発生する位相ズレ。これを常時解決するフィルタースルー設計を採用し、AVアンプからの音声信号に忠実な再生が可能になりました。

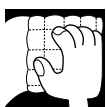
もくじ

特長 3
付属品の確認 3
お使いになる前に 4
設置のしかた 5
接続のしかた 6
各部の名称と使いかた............................6
故障？　ちょっと調べてください 8
保証とアフターサービスについて 9
仕 様 9

付属品の確認

■ RCAピンコードX1

■ 電源コード

■ 取扱説明書
■ 保証書

お使いになる前に

お手入れについて

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5〜6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

設置上の注意

■ 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くには設置しないでください。キャビネットが変形、変色したり、スピーカーが故障する原因となります。
■ スピーカーシステムは重いため、不安定な場所に設置するのは大変危険ですのでおやめください（サブウーファーはテレビ、またはモニターの上に設置しないでください）。
■ サブウーファーを設置する場合は、放熱を良くするため他の機器や壁などから十分な間隔をとってください(天面25cm以上、後面10cm以上、右側、左側各10cm以上)。また前側より5cm以上奥に押し込まないでください。本機と壁および他の機器との間隔がとれないと、内部に熱がこもり、性能不良または故障の原因になります。

次のような場所には設置しないでください。

- 直射日光を受けたりする場所、暖房器具に近い場所。
- 風通しが悪く、湿気やホコリの多い場所。
- 振動や傾斜のある、不安定な場所。
- アルコール類やスプレー式の殺虫剤など、引火性のものを使用する場所。
- テレビやモニターなどの上。
- カセットデッキなど、磁界に影響される機器のそば。

チューナーのアンテナケーブルから離して設置してください。

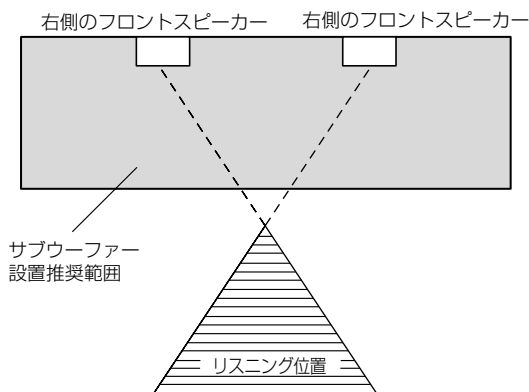
近くに置いた場合に雑音が出ることがあります。このようなときはアンテナやアンテナケーブルから本機を離してご使用になるか、やむを得ない場合は本機の電源を切ってください。

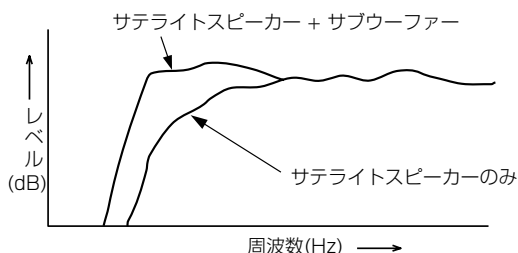
ご注意

- 本機は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムですが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能より、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをテレビからさらに離してご使用ください。
- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

設置のしかた

スピーカーの設置

サブウーファーは、人間の耳が低音域において方向感覚が無くなることを利用し、重低音をモノラルで再生します。方向感覚が無くなるため、設置場所は、かなり自由になりますが、あまり離れた場所に置くと左右のスピーカーとの音のつながりが不自然になる場合があります。

サブウーファーとサテライトスピーカーシステムの組み合せ

サブウーファーとサテライトスピーカーシステムを組み合せると、下図の様な特性が得られ、低音域が増強されます。

ドルビーデジタル*の再生においては、サブウーファーの専用再生チャンネルの設定を推奨しており、特にLFE(Low Frequency Effect=映画などの迫力を増すための地鳴りの様な効果音)の再生に対して本機は有効です。

*ドルビーデジタルについて

ドルビーデジタルは、ドルビーサラウンドからドルビープロロジックサラウンドと継続して発展してきたドルビーサラウンドのマルチチャンネル、デジタルシステムの名称です。

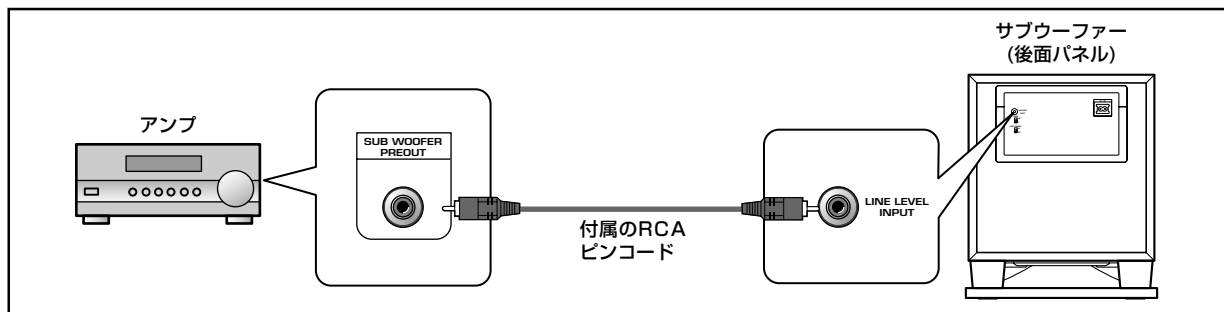
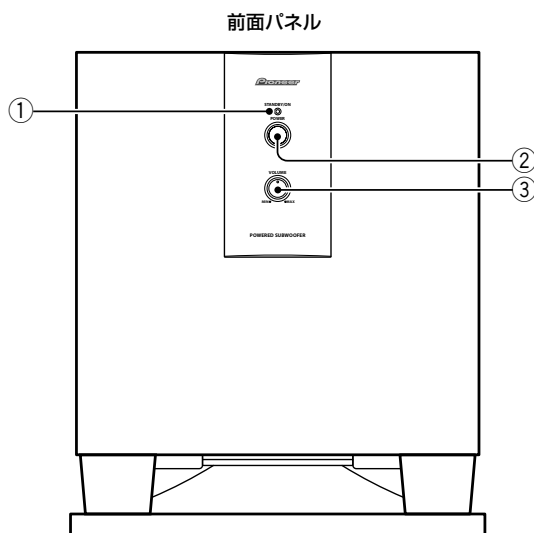
ドルビーデジタルは5.1チャンネルシステムとも呼ばれます。20Hz～20kHzまでの周波数範囲を持つ5チャンネル（フロント左、右、センター、リア左、右）と、独立したサブウーファー用チャンネルを持っているためです。サブウーファー用チャンネルは、LFE(Low Frequency Effect)とも呼ばれています。

LFEチャンネルは、迫力ある低音を楽しみたいときに好みに合わせて使用するチャンネルとしています。

接続のしかた

すべての接続が終ってから、コンセントを接続してください。アンプにサブウーファー用のプリアウト端子があることを確認してください。付属のRCAピンコードで、本機のLINE LEVEL INPUT端子と接続します。

ご注意

アンプの、サラウンド・センターチャンネル用のプリアウト端子と接続すると、センターチャンネルのみの低音となり、十分な低音が得られません。

各部の名称と使いかた

① パワーインジケーター(STANDBY/ON)

電源をオンにすると緑色に点灯します。
信号のない状態が約8分以上続くと、オートスタンバイ機能（7ページ参照）がONの場合は自動的にスタンバイ状態になります(インジケーターが赤く点灯します）。その後、信号が入力されると電源がオンになり、インジケーターが緑色に点灯します。

ご注意

長時間使用しないときは電源をオフにして、インジケーターが消灯していることを確認してください。

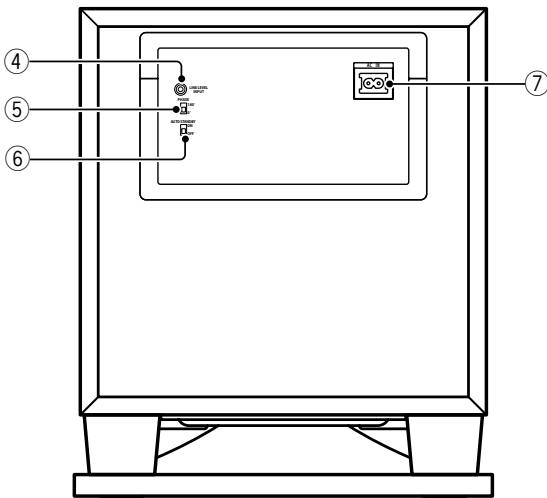
② パワースイッチ(POWER)

押すと電源がオンし、もう一度押すとオフします。

③ レベルつまみ(VOLUME)

サブウーファーの音量を設定します。

- 最小(MIN)位置からゆっくりと回してください。
- 本機は独自に重低音のレベルを設定できますので、アンプ側で低音の増強をしないでください。

後面パネル

④ ラインレベルインプット端子
(LINE LEVEL INPUT)
サブウーファー用のプリアウト端子付きのアンプと、付属のRCAピンコードで接続します。

⑤ 位相切り換えスイッチ (PHASE 0°/180°)
組み合わせるスピーカーシステムによっては極性が初めから反転しているものがあります。
この場合、サブウーファーとフロントスピーカーとの接続極性を逆にしたほうが音のつながりがよい場合があります。通常は0°にて使用しますが、極性が不明な場合は特に、位相反転の有無を聴き比べてみることをおすすめします。

⑥ オートパワーオン/オフ切り換えスイッチ
(AUTO STANDBY)
オートスタンバイ機能をONまたはOFFにします。

- **オートスタンバイ機能**
  オートパワーオン/オフ切り換えスイッチ⑥をON（お買い上げ時はOFFになっています）にすると、オートスタンバイ機能が働きます。入力信号がない状態で約8分間が経過すると、電源が自動的にスタンバイ状態（オフ状態）になります。入力信号が入ると自動的に電源がONになります。

ご注意
使用する環境によって、周辺機器からのノイズなどの影響を受けてオートスタンバイ機能が働き、電源がオンになってしまうことがあります。そのようなときはオートパワーオン/オフ切り換えスイッチをOFFにして、パワースイッチで電源のオン・オフをしてください。

⑦ ACインレット
電源コードを接続します。すべての接続が終わってから、一番最後にACインレットと壁のコンセントとを付属の電源コードで接続してください。

使いかた

1 **パワースイッチ(②)をオンします。**

- 本機の電源コードをアンプのスイッチ連動コンセントに接続したときはオンのままにしておくと、アンプと連動してオン/オフできます。
- アンプと連動できない場合は、アンプの電源をオンしてから本機をオンしてください。電源を切るときは、本機をオフしてから、アンプをオフしてください。

2 **アンプを操作して音を出し、左右のスピーカーの音量を調整します。**

3 **レベルつまみ(③)で低音の強さを調整します。**

必要に応じて位相切り換えスイッチ(⑤)、レベルつまみ(③)で調整してください(**P.6~7**)。

 注意

パワーインジケーターが消灯している状態でも、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

故障？　ちょっと調べてください

故障かな？....と思ったらちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。 （パワースイッチを押してもインジケーターが点灯しない。）	• 電源コードが正しく接続されていない。	• プラグを正しく接続してください。
音が出ない。 （インジケーターは点灯する。）	• レベルつまみがMIN位置になっている。 • RCAピンコードの接続が正しくない、または外れている。	• レベルつまみをゆっくり右に回してください。 • 接続を確認し、正しく接続してください。
音が歪む。	• 音量が大きすぎる。	• レベルつまみを左に回し、音量を下げてください。
発振（大きな音が連続的に出る）する。	• 本機の音量が大きすぎる。	• レベルつまみを左に回し、音量を下げてください。
チューナーを聞いたとき雑音が多い。	• AMループアンテナやFMの室内アンテナが本機の近くにある。	• AMやFMのアンテナ(室内用）と本機の距離を離してください。
スタンバイ状態にならない。	• オートパワーオン/オフ切り換えスイッチがOFFになっている。	• オートパワーオン/オフ切り換えスイッチをONにしてください。

保証とアフターサービスについて

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
保証期間はご購入から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談は

お買い求めの販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼が出来ない場合は、裏表紙の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」に記載されている修理受付センターにご相談ください。

修理を依頼されるとき

8ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときには、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店へご依頼ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：パワードサブウーファー
- 型番：S-EW5
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容の状況(できるだけ詳しく)
- 訪問のご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物、公園など)

■ **保証期間中は：**
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ **保証期間が過ぎているときは：**
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

仕 様

パワードサブウーファー

アンプ部

最大出力 .... 200 W (PEAK)
実用最大出力(100 Hz, 10 %, 6 Ω) .... 100 W (JEITA)
入力端子
　入力レベル .... 160 mV/20 kΩ

スピーカー部

型式 .... バスレフ方式フロアー型、（低磁気漏洩)*
スピーカーユニット .... 20 cmコーン型
再生周波数帯域 ....27～1,000 Hz

電源部・その他

電源 .... AC100 V、50/60 Hz
消費電力 .... 67 W
省エネモード時消費電力（オートパワーオフ時）
.... 0.5 W以下
外形寸法 .... 350(幅)X 410(高)X 397(奥行)mm
質量 .... 17.9 kg

付属品

RCAピンコード(3 m) 1
電源コード 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1
取扱説明書

- 左記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

＊ 低磁気漏洩設計ですのでテレビに近づけて使用できますが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能より、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをテレビからさらに離してご使用ください。
近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか？
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

故障や事故防止のため、すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、『保証とアフターサービス』（P.9)をお読みのうえ、修理受付センター（裏表紙）に点検をご依頼ください。

K026_Ja

ご相談窓口　・　修理窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名 ② ご購入日 ③ 故障症状を具体的に、ご連絡ください。

●パイオニアホームページ　：お客様サポート　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
（商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など）

＜下記窓口へのお問い合わせの時のご注意＞市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、ＰＨＳ、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHS などからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１７：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ／ビジュアル商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口　フリーフォン ００７０－８００－８１８１－２２
一般電話　【一般電話】０３－５４９６－２９８６
●ファックス受付　０３－３４９０－５７１８

部品のご購入についてのご相談窓口

●部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター
受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００（弊社休業日は除く）
電話（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０９５　ファックス（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０９６
一般電話　０５３８－４３－１１６１

修理についてのご相談窓口

●お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１９：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）
電話（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０２８（ゴーパイオニア）　ファックス（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０２９
一般電話　０３－５４９６－２０２３

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）
一般電話　０９８－８７９－１９１０　ファックス　０９８－８７９－１３５２

VOL.012

JIS C 61000-3-2適合品　D50-5-10-1_A_Ja

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<05F00001>　<SRA1418-A>